１２月の農作業管理

柑橘

周防大島営農センター

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

１、 今年の傾向

今年の９月以降、雨が多く低酸で果皮が弱いため腐敗果が多くなります。貯蔵中の温湿度管理に注意しましょう。また、浮皮の発生も多くなりますので、７分着色以上の園地から早めの収穫をして下さい。

○11 月 4 日糖酸分析結果　　周防大島統括本部調査

年度	石地		大津４号		青島	
	糖	酸	糖	酸	糖	酸
４年	10.3	1.08	10.2	1.32	9.8	1.18
５年	12.8	1.18	12.8	1.42	12.4	1.34
６年	10.1	0.88	10.1	1.06	9.6	0.96
７年	9.7	1.09	10.0	1.17	9.4	10.9
８年	10.3	0.9	10.4	1.0	9.9	1.0

●収穫での注意点

１、着色に差があるため、区分採収・貯蔵を徹底しましょう。
２、浮皮の発生に注意し、出はじめている園は早めに収穫をしましょう
３、ハサミ傷、軸長等が腐敗の原因になるため丁寧に収穫をしましょう。

●貯蔵での注意点

１、貯蔵中の味や品質の低下、浮皮を防ぐために予措を徹底しましょう。

２、腐敗果は周囲の果実の腐敗を誘発します。全体の品質低下を防ぐために適宜、腐敗果を取り除きましょう。

３、温度・湿度を一定に維持するため定期的な換気を行いましょう。

●予措と貯蔵の目安

品種	貯蔵区分	予措	貯蔵	
		減量歩合（%）	温度（℃）	湿度（%）
普通温州	出荷予措	2～3		
	貯蔵予措	3～5	5～8	85
伊予柑	貯　　蔵	5～6	6～8	85
ポンカン	貯　　蔵	5～7	5～8	80
はるみ	短期貯蔵（1 カ月）	2～3（自然予措）	5～8	85
	長期貯蔵（2 カ月）	5～6	5～8	85

2、「せとみ」「デコポン」等の袋かけ

年明け以降に収穫する品種で、低温に遭遇する可能性のある品種は被害の軽減、鳥の被害を防ぐために袋かけを行いましょう。
まだ行っていない園では、１２月５日までに実施しましょう。

3、越冬病害虫防除

時期	散布目的	薬剤名
１２月下旬 ～ １月上旬	ミカンハダニ カイガラムシ類	機械油乳剤 95　40 倍 又は アタックオイル　60 倍
	樹勢回復	尿素　500 倍
	花芽促進	リンクエース　2,000 倍

●散布する際には、晴天時の午前中に散布を行い、散布後２～３日晴天が予測される日が続くと農薬の効果が高まります。

樹の内部（幹・枝・葉裏）にも十分かかるよう散布して下さい。

●中晩柑及び極早生等の樹勢の弱い品種・系統にはアタックオイル６０倍を散布して下さい。（ハダニ防除主体）

●樹勢回復、花芽促進を目的に、収穫後、２～３回（１週間間隔）尿素とリンクエースの葉面散布を行いましょう。機械油等にも混用は可能です。

落葉果樹

	時期	作業内容
梅	１２月	・越冬病害虫、ｶｲｶﾞﾗﾑｼ防除　機械油乳剤９５　１４倍 ・苦土石灰の施用　２～３袋（10a 当たり）
ｷｳｲﾌﾙｰﾂ	１２月上旬	・剪定…１２月から樹液の流動が始まる２月上旬までに行いましょう １㎡当り結果母枝数は３本程度にしましょう
カキ	１２月中旬	・土壌改良剤(ヨウリン)の施用　１袋（１０a 当たり）

野菜

作物	作業内容
ハクサイ	頭を押さえてみて、硬く締まっているようなら収穫できます。畑で貯蔵する場合は外葉を縛ることで結球が進み、寒さにも強くなります。早めに縛るとアブラムシの巣になりやすいので、初霜が降りてから行いましょう。
ダイコン	上に向って勢いよく伸びた葉が開き気味になり、外葉が垂れるようになったら収穫できます。収穫が遅れるとス入り（空洞化）しますので収穫遅れに注意しましょう
ジャガイモ	収穫は、茎葉が枯れはじめたら行います。収穫後は日陰でよく乾かし、段ボール箱などに入れて冷暗所で保存すれば、半年くらいはもちます。

◎営農相談フリーダイヤル　０１２０－０８２－７２２